

野菜の需給・価格動向レポート（平成29年12月4日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	10月の価格情報		11月の価格情報			11月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	12月の主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	「図の見方」 平均価格 見通しの価格水準 平均価格 現時点の価格水準	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 下旬	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額 上旬	中旬					
葉菜類	キャベツ	74.19	59 (80%)	72.93	84 (116%)	91 (125%)	・6,840t (94%)	愛知(56), 千葉(25)	→	愛知産は、天候回復に伴い、台風による下等級品の発生は減少し、秀品率も上昇しつつあり、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、台風による塩害により、L玉比率が低いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		88.91	65 (73%)	76.91	86 (112%)	100 (130%)	・1,870t (82%)	愛知(63), 兵庫(10), 大阪(8)	→	愛知産の出荷は平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	たまねぎ	93.34	68 (73%)	83.77	71 (84%)	73 (87%)	・7,595t (100%)	北海道(97)	→	北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、12月出荷分から中生品種への切り替え時期となるが、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		93.34	71 (76%)	83.77	74 (88%)	77 (92%)	・2,969t (97%)	北海道(87), 兵庫(12)	→	北海道産の出荷は平年並みと見込まれるものの、市場在庫もあることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	136.25	379 (278%)	136.25	317 (233%)	294 (216%)	・2,553t (101%)	千葉(25), 埼玉(19), 群馬(14), 茨城(13)	→	千葉産、埼玉産及び群馬産は、台風により倒伏や曲がり等が発生し、細ものが増加するなど正品率に影響がでており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、台風により葉折れ等が発生し、正品率に影響がでており、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		467.01	399 (85%)	467.01	782 (167%)	706 (151%)	・142t (82%)	徳島(26), 三重(19), 奈良(19), 高知(12)	→	千葉産、埼玉産、群馬産及び茨城産の出荷が平年より少なめ又はやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	はくさい	56.81	61 (107%)	40.32	56 (140%)	68 (168%)	・5,840t (104%)	茨城(96)	→	茨城産は、台風による浸水被害で、根のハリが弱く肥大遅れが発生しているが、11月の天候回復もあり、生育は概ね順調なことから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。
		69.44	64 (92%)	55.95	77 (139%)	91 (163%)	・1,163t (76%)	茨城(33), 愛知(17), 和歌山(10), 兵庫(8)	→	茨城産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるものの、気温の低下もあり鍋物需要が堅調なことから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	ほうれんそう	385.11	647 (168%)	385.11	881 (229%)	855 (222%)	・419t (49%)	群馬(44), 茨城(21), 千葉(13)	→	群馬産及び茨城産は、10月の曇雨天等による生育不良により細株が多いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、台風により特に露地作の品質低下がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		461.74	721 (156%)	461.74	1006 (218%)	849 (184%)	・188t (50%)	徳島(47), 福岡(19), 群馬(11), 岐阜(10)	→	群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	レタス (結球)	158.27	148 (93%)	143.63	271 (189%)	298 (207%)	・2,071t (55%)	静岡(30), 香川(15), 茨城(14), 兵庫(12)	→	静岡産及び兵庫産は、11月の好天で生育は回復しているものの、長雨及び台風による定植及び生育遅れに加え、正品率の低下も見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。香川産は、台風及び長雨による定植遅れがみられたものの、11月の好天で生育は回復傾向で、品種の切り替わりもあることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、低温や台風による降雨で、生育遅れや正品率の低下がみられるものの、11月の好天で回復傾向であることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		152.57	165 (108%)	154.61	294 (190%)	280 (181%)	・706t (64%)	兵庫(46), 徳島(21), 香川(10), 長崎(9)	→	香川産及び茨城産の出荷が平年よりやや少なめになると見込まれるものの、静岡産及び兵庫産の出荷が少なめと見込まれ、また、業務需要もあることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
果菜類	きゅうり	289.03	597 (207%)	289.03	509 (176%)	365 (126%)	・2,955t (107%)	宮崎(37), 千葉(19), 高知(15), 埼玉(13)	→	宮崎産は、11月の好天により生育及び作柄は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、11月に入ってからの低温により、生育が鈍く、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。高知産は、10月の長雨や台風から回復基調にあることから、現在平年より少なめの出荷は、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。埼玉産は、出荷終盤となっており、生育も順調で、作柄も良いことから、引き続き平年並みのまま12月末に出荷終了の見込み。
		298.96	661 (221%)	298.96	523 (175%)	353 (118%)	・850t (97%)	宮崎(51), 高知(22), 徳島(9)	→	千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、宮崎産、高知産及び埼玉産が平年並み又は平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	トマト (大玉)	347.41	336 (97%)	347.41	351 (101%)	369 (106%)	・3,022t (93%)	熊本(47), 愛知(16), 栃木(13)	→	熊本産は、日照不足により生育遅れがでており、現在少なめの出荷となっているものの、天候の回復により、今後は平年並みの出荷に回復する見込み。愛知産は、11月中旬からの曇天及び低温により、生育や着色遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、10月中旬の曇天と11月からの低温により、生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		371.67	362 (97%)	371.67	385 (104%)	377 (101%)	・1,048t (96%)	熊本(76)	→	熊本産の出荷は平年並みに回復すると見込まれるものの、愛知産及び栃木産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	なす	301.00	353 (117%)	301.00	480 (160%)	508 (169%)	・807t (93%)	高知(64), 福岡(17)	→	高知産は、台風、気温低下等により、生育遅れが発生しているものの、11月の好天により生育も回復基調にあることから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。福岡産は、生育は概ね順調で品質もよいことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		263.21	373 (142%)	263.21	490 (186%)	492 (187%)	・344t (103%)	高知(42), 熊本(25), 福岡(19), 岡山(11)	→	高知産及び福岡産の出荷は平年並みに回復又は平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。
ピーマン	263.58	366 (139%)	378.83	606 (160%)	593 (157%)	・709t (75%)	宮崎(36), 茨城(30), 高知(18)	→	宮崎産は、8月の低温及び10月の曇雨天により着果不良がみられたものの、11月の好天で生育は概ね良好なことから、現在少なめの出荷は、今後はやや少なめの出荷の見込み。茨城産及び高知産は、11月の好天で、促成作の生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
	296.27	359 (121%)	371.29	597 (161%)	578 (156%)	・332t (89%)	宮崎(43), 高知(24), 鹿児島(13)	→	宮崎産の出荷がやや少なめになると見込まれ、茨城産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。	
根菜類	だいこん	67.55	89 (132%)	67.55	83 (122%)	96 (142%)	・4,012t (71%)	千葉(47), 神奈川(45)	→	千葉産は、台風による塩害等で、生育遅れや下等級品の発生がみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。神奈川産は、台風により、10日から2週間ほど生育遅れが発生していることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
		76.48	96 (126%)	76.48	99 (129%)	100 (130%)	・1,904t (81%)	和歌山(30), 長崎(25), 徳島(19), 鹿児島(17)	→	千葉産及び神奈川産の出荷が平年より少なめ又はやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
	にんじん	123.08	84 (68%)	105.86	118 (112%)	134 (127%)	・3,327t (89%)	千葉(80)	→	千葉産は、10月の日照不足により、地下部の生育遅れがでて小ぶりとなっているものの、本年は豊作基調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
123.11		84 (68%)	104.49	132 (126%)	136 (130%)	・1,670t (118%)	長崎(50), 鹿児島(14), 鳥取(13), 千葉(9)	→	千葉産の出荷は平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、今後は平均並みで推移する見込み。	

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	10月の価格情報		11月の価格情報		11月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	12月の主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格 下旬	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格 上旬 中旬				
いも類	さといも	220.97	268 (121%)	220.97	271 (123%) 259 (117%)	・539t (101%)	埼玉(60), 千葉(14)	 埼玉産及び千葉産の出荷が平年よりやや少なめ又は少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		217.56	334 (154%)	217.56	303 (139%) 275 (127%)	・201t (132%)	愛媛(36), 福井(26), 静岡(10)	
	ばれいしょ	96.99	88 (91%)	96.99	89 (92%) 92 (95%)	・3,470t (100%)	北海道(80)	 北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		96.99	85 (88%)	96.99	84 (87%) 87 (90%)	・1,434t (112%)	北海道(84), 長崎(16)	

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び青の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	10月の価格情報		11月の価格情報		11月中旬の東京都及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	12月の主産地	生育及び価格の12月中旬までの見通し	
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格 下旬	(参考) 過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格 上旬 中旬				
洋菜類	ブロッコリー	408.61	485 (119%)	302.07	503 (167%) 401 (133%)	・808t (101%)	愛知(24), 香川(24), 埼玉(18)	 愛知産及び埼玉産は平年並みに回復すると見込まれるものの、香川産の出荷が平年より少なめと見込まれ、販促需要も堅調となっていることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		424.92	487 (115%)	369.86	592 (160%) 452 (122%)	・214t (98%)	鳥取(26), 徳島(24), 米国(11), 長崎(9)	
根菜類	ごぼう	252.90	287 (113%)	247.06	271 (110%) 240 (97%)	・342t (113%)	青森(63), 茨城(16)	 茨城産の出荷はやや少なめと見込まれるものの、青森産が平年並みの出荷と見込まれることから、平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		173.20	200 (115%)	179.28	180 (100%) 171 (95%)	・173t (85%)	茨城(51), 青森(16), 北海道(16)	
	かぶ	138.24	127 (92%)	123.51	171 (138%) 186 (151%)	・332t (68%)	千葉(83)	 千葉産の出荷が引き続き平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		203.64	182 (89%)	146.85	220 (150%) 238 (162%)	・61t (64%)	福岡(28), 徳島(22), 石川(21)	

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成24~28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、赤字及び青の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 野菜の輸入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

○輸入について

貿易統計によると、平成29年10月の生鮮野菜の輸入量は、5万トン(前年同月比69%)であった。また、輸入量の多い加工野菜は、15万トン(同105%)であり、野菜全体では、20万トン(同93%)とかなりの程度減少した。

このうち、中国産の輸入数量は合計で11万1千トン(同92%)と、輸入量の55%を占めた。

生鮮野菜の輸入量は、過去5年間で最も減少した。これは、今年のはたまねぎやにんじんなどの輸入量の多い品目の作柄が良く、加工業務用などに割安な国産を仕入れる動きが強まったと考えられる。一昨年の輸入量(6万4千トン)と比較して82%となっているものの、前年が台風などの天候不順により輸入量が増加した(7万2千トン)ことから、本年の比率が減少した。

○輸出について

10月の輸出量は、野菜全体では8,009トンと、前年同月を大幅に上回った(前年同月比246%)。生鮮野菜が6,604トン(同306%)、加工野菜が1,405トン(同127%)と、どちらも前年同月を大幅に上回った。

なお、輸出量が前年を大幅に上回った、たまねぎ及びかぼちゃについては、国産の豊作基調があり、海外からの引き合いに応じたことから、増加したとみられる。

野菜の輸入数量

野菜全体の輸入量(平成29年10月) (単位: トン, %)

区分	平成27年		平成28年		平成29年10月		平成29年1~10月	
	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同期比	数量
生鮮野菜	826,845	93	862,416	104	50,055	69	713,473	102
加工野菜	1,752,337	98	1,768,892	101	150,146	105	1,563,921	108
野菜合計	2,579,182	97	2,631,308	102	200,202	93	2,277,394	106
うち中国産野菜合計	1,355,491	96	1,365,785	101	110,671	92	1,155,116	106
中国産シェア	53		52		55		51	

主な生鮮野菜の輸入先(平成29年10月) (単位: トン, %)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	19,227	83	中国	18,938	米国	237	ニュージーランド	52
にんじん	5,616	47	中国	5,505	豪州	98	米国	12
ねぎ	4,404	78	中国	4,404				
ごぼう	4,185	89	中国	4,150	台湾	36		
ジャンボピーマン	2,798	79	韓国	1,575	オランダ	954	ニュージーランド	254
かぼちゃ	2,049	100	ニュージーランド	1,995	トンガ	24	米国	19
アスパラガス	1,524	83	豪州	1,375	メキシコ	119	タイ	14
にんにく	1,517	102	中国	1,412	スペイン	95	米国	9

同(平成28年10月) (単位: トン)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	23,232	中国	21,430	米国	1,758	インド		29
にんじん及びかぶ	12,059	中国	10,825	豪州	1,155	米国		35
ねぎ	5,668	中国	5,668					
ごぼう	4,721	中国	4,697	台湾	24			
ジャンボピーマン	3,520	オランダ	1,577	韓国	1,519	ニュージーランド		424
かぼちゃ	2,049	トンガ	1,247	ニュージーランド	629	メキシコ		146
アスパラガス	1,837	豪州	1,550	メキシコ	226	ニュージーランド		22
にんにく	1,492	中国	1,317	スペイン	161	米国		13

同(平成27年10月) (単位: トン)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ及びジャロット	3,209	台湾	3,194	香港	10	マレーシア		4
ながいも	646	米国	385	台湾	237	シンガポール		22
かぼちゃ	196	ベトナム	100	香港	84	シンガポール		6

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜部 野菜部課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールアドレスから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aio.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
 ※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。